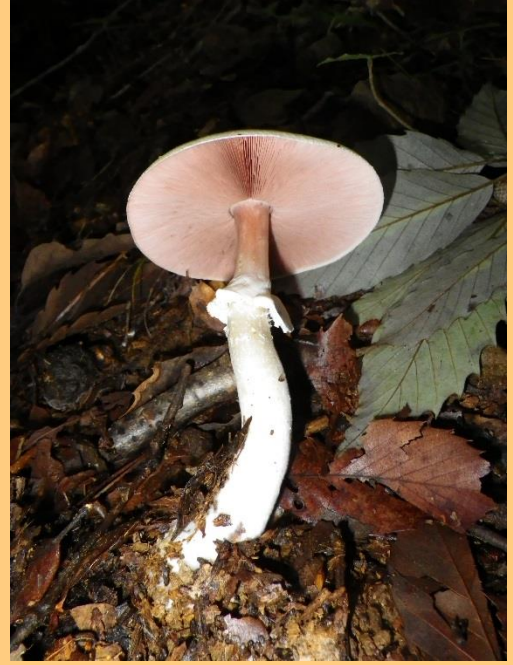


今年の夏は暑いですが、おまけに梅雨が短かったので、6月から暑くなりました。「地球温暖化」という言葉だけでは表現できない異常です。今は、夏のキノコの最盛期ですが、今年は森の中でもなかなかキノコに出会えません。梅雨の雨量が少なかったから？猛暑の影響？今回は、あきる野で見られる夏のキノコを紹介します。



ウスキモリノカサ(左右の写真)は、暗い林床で目に付くキノコです。梅雨が明ける頃から8月ぐらいまで見られます。傘の裏のひだは白色→肉色→紫褐色と変化します。このキノコは腐生菌と呼ばれ、林床に溜まった落ち葉などを分解して森の土を作る役割を担っています。昔は可食キノコに分類されていましたが、近年では「注意」となっています。



この左右のキノコの違いは？

どちらも白色で、傘にトゲトゲがあるオニテングタケの特徴を持っています。違いは基部にトゲがあるかないか、柄がガサガサか平坦かです。このキノコは、菌根菌と呼ばれ、樹木と共生し、樹木を育てながら、生きているキノコです。猛毒キノコとなります。

←シロオニタケ

→コトヒラシロテングタケ



このようにキノコは、森の中で土を作ったり、樹木の生長を助けたりと健全な森を維持してくれる重要な存在です。菌類(キノコの仲間)が異常気象で衰退すると、菌類の力で維持されていた森も衰退する可能性があります。幸い、菌類の本体は、地上に出ているキノコ(子実体)ではなく、菌糸と呼ばれる白い糸状のもので、地中や落ち葉などの中にあるため、地上でキノコが見られなくても、まだ生存していると思われます。

キノコを見るとき、毒、食用と見るのではなく、林床にポコポコとキノコが出ている姿が、健全な森の姿だと見ると、多くのキノコがそれぞれの役割をもって森と生きていることが分ります。



①オオホウライタケ(腐生菌)	針葉樹林、竹林など場所を選ばずに見られる
②ベニグチ(菌根菌)	広葉樹と共生関係をもつ
③オオウスムラサキフウセンタケ(菌根菌)	比較的標高の高いところで見られる
④タマゴタケ(菌根菌)	広葉樹と共生関係を持つ 可食
⑤ドクベニタケ(菌根菌)	広葉樹と共生関係を持つ 種類が多い
⑥ヤブレベニタケ(菌根菌)	広葉樹と共生関係を持つ 可食

あきる野では、夏にたくさんのキノコを見ることができます。雨の翌日に森に入ってみてください。たくさんのキノコに出会えるでしょう。



←ベッコウタケ

これまで紹介したキノコとは別に、生きている樹木を枯らす性質を持つ種類があります。このベッコウタケは、広葉樹の根株に侵入して根株を枯らしてしまいます。まれに、市街地で大木を倒壊させ大事故を起すこともある危険なキノコです。

